

人材養成および教育研究上の目的
独語学独文学専攻においては、独語学・独文学の各分野においてカリキュラムに基づき、学生の適性と能力に対応したきめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では独語学・独文学に偏ることなく人間の精神の営みとドイツ文化の特性を視野に納め、講義と演習を通じて研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、社会諸方面の要請に応えることのできる専門的人材を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより練磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、国際的に通用する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
<博士課程前期>		
人文科学研究科独語学独文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（文学）の学位を授与する。	人文科学研究科独語学独文学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科独語学独文学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。
<p>知識・理解</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語及びドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化・社会や思考方法と価値観に関する深い理解を有している。(DP1) 先行研究を踏まえ、独自の論を展開できる知見を有している。(DP2) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語及びドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化・社会や思考方法と価値観に関して専門的説明をすることができる。(DP1) 修士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。(DP1・DP2) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの横軸としてドイツの社会・歴史・文化・言語を対象とした体系的な科目である各種「特殊講義」を配置し、縦軸として研究指導教員が2年間担当する「演習」を配置し、縦と横のつながりを保証したカリキュラム編成を行う。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特殊講義」では、専門文献の講義を行い、研究課題と授業内容を関連付けることで高度な問題発見と問題解決に結びつく授業を実施する。研究指導教員の「演習」では、研究課題に関する発表と議論を中心に授業を実施する。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献読解の精度、発表と議論、課題レポート、ならびに、修士論文と口頭試問により、評価する。(DP1・DP2) 	<p>【求める学生像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に要求されるドイツ語運用能力を有し、そのさらなる涵養に意欲を持つ人 2. ドイツ語圏の国々の文化・社会や思考方法と価値観に関する理解を深化させたいと考えている人 3. 独語学・独文学あるいは日独比較文化を基軸とした専門性の高い研究に取り組む意欲のある人 4. 高度な能力と専門的な知識を活かして国際社会における異文化理解に貢献したいと考えている人 5. 福岡大学人文学部ドイツ語学科ヨーロッパ特別コースの学生については、早期卒業制度に関する規定に基づく成績を満たした者で、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ文化及びドイツ語に関する専門性の高い研究に取り組む意欲のある人 <p>上記1から5の人材を求める。</p>
<p>技能</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度なドイツ語運用能力を身に付けている。(DP3) ドイツ語およびドイツ文化に関する研究課題を発見し、その課題へのアプローチ方法と問題解決への道筋を明快かつ説得力のあるレポートや論文で明示する能力を身に付けている。(DP4) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語で研究課題についてディスカッションすることができる。(DP3) ドイツ語およびドイツ文化に関する研究課題をみずから発見し、その課題へのアプローチ方法と問題解決への道筋を明快にした説得力のあるレポートを書くことができる。(DP4) 修士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。(DP3・DP4) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの横軸としてドイツの社会・歴史・文化・言語を対象とした体系的な科目である各種「特殊講義」を配置し、必ず開講する。 研究指導教員が担当する「演習」を1年次から配置した順次制に加え、体系的にも配慮して、修了に必要な単位32単位のうち、指導教員が担当する「演習」から8単位、ドイツ人教員が担当する「特殊講義」または「演習」から4単位、各種「特殊講義」から20単位（内4単位は指導教員が担当）というカリキュラム設計を行い、指導教員の「演習」（8単位）「特殊講義」（4単位）ドイツ人教員の「特殊講義」または「演習」（4単位）計16単位>というバランスのとれたカリキュラム設計を行う。また、研究指導の必要に応じ、他の大学から招聘する非常勤講師の「特別講義」を4単位を上限に開講する。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイツ人教員の「特殊講義」または「演習」により実践的で高度なドイツ語運用能力を涵養し、各種「特殊講義」における専門文献の講義により高度なドイツ語の読解力も養成する。 特殊講義の授業内容と研究課題を関連付けることで、高度な問題発見と問題解決に結びつく授業を実施する。 指導教員の「演習」では、文献講義に加え、発表と議論を通じて専門分野におけるプレゼンテーション力・論理的思考力を高める授業を実施する。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業でドイツ語によるディスカッションを行い、その到達度により、評価する（ドイツ人教員が担当する科目）。(DP3) 専門文献の理解度、発表と議論、課題レポート、ならびに、修士論文と口頭試問により、評価する（ドイツ人教員が担当する科目を含む）。(DP3・DP4) 	<p>【入学選抜の在り方】</p> <p>筆記試験では、ドイツ文化に関する基礎的な専門知識と研究遂行に必要な語学力について、面接では、志望動機と研究計画について、入試要項に基づき厳格に選抜を実施する。福岡大学人文学部ドイツ語学科ヨーロッパ特別コースの学生に関しては、早期卒業制度に関する規定に基づく成績について、面接では志望動機と研究計画について、入試要項に基づき厳格に選抜を実施する。</p>
<p>態度・志向性</p> <p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識と高度な能力を活かし、国際社会における異文化理解に貢献する姿勢を身に付けている。(DP5) 研究倫理規範を遵守して、研究を遂行する能力を有している。(DP6) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識と高度な能力を活かし、国際社会における異文化理解に貢献することができる。(DP5) 研究倫理規範を遵守して修士論文を作成させ、口頭試問にも合格している。(DP5・DP6) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次に指導教員の「演習」に加え、ドイツ人教員による「特殊講義」、ドイツ語圏の文化・歴史・社会に関する各種「特殊講義」を配置し、体系的に順次制に配慮した科目編成を行い、専門的な知識と高度な能力を活かし、異文化理解に貢献できる国際人を育成する授業と研究指導を実施する。 「研究倫理」ラーニングコースの受講を各年次において必須とする。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの横軸となる科目体系（コースワーク）として、1年次に、指導教員の「演習」に加え、高度なドイツ語力の養成を旨とするドイツ人教員による「特殊講義」または「演習」、ドイツ語圏の文化・歴史・社会・言語に関する各種「特殊講義」を配置し、各種「特殊講義」から「演習」へと進む体系的に配慮した科目配置を行う。また、縦軸となる研究指導体系（リサーチワーク）として、研究課題に沿った修士論文作成指導を行う「演習」を各年次に必修科目として配置することで順次性に配慮し、縦と横のつながりを保証するカリキュラム編成を行い、専門的な知識と高度な能力を活かし、異文化理解に貢献できる国際人を育成する授業と個人研究指導を実施する。 毎年度4月1日に個人履修指導を行い、「研究倫理」ラーニングコースの受講を各年次において必須とする。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門文献の理解度、発表と議論、課題レポート、修士論文中間発表会における発表、ならびに、修士論文と口頭試問により、評価する。(DP5・DP6) 修士論文による評価の前援として、各年次において「研究倫理」ラーニングコースを受講していることを必須の条件とする。(DP6) 	

＜博士課程後期＞			
	<p>人文科学研究科独語学独文学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（文学）の学位を授与する。</p>	<p>人文科学研究科独語学独文学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。</p>	<p>人文科学研究科独語学独文学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。</p>
知識・理解	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な職業専門人・研究者として自立した活動ができる高度な知見を有している。(DP1) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な職業専門人・研究者として高度な知見を活かし、自立した活動ができる。(DP1) 博士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。(DP1) 	<p>【教育課程の編成】</p> <p>「独語学」「独文学」の2つの研究領域を設け、研究指導科目である「特別研究」と「特論」の二段構えの体制をとり、双方の領域において、高度な専門知識を涵養する「特論」を配置することで高度な専門職業人・研究者として自立できる知見を涵養するカリキュラムを編成している。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <p>「特論」における専門文献の講読と考察を通じて高度な専門知識を涵養し、博士論文作成の基盤を構築する授業を実施する。「特別研究」では、研究課題に関する発表と議論を通して高度な研究能力を養成することを、授業の第一の到達目標とするが、高度な専門知識の涵養も到達目標のひとつとして教育指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>専門文献の読解力、専門文献の内容に関する理解の到達度、研究課題に関するレポート、ならびに、博士論文と口頭試問により、評価する。(DP1)</p>	博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、研究成果をいっそう広げ、深めようという向上心・探究心を持つ人を求める。また、一般入学試験や社会人入学試験、外国人留学生入学試験により、学問及び社会に貢献しうる将来性を持つ人を幅広く受け入れる。
技能	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な専門職業人・研究者として活動できる研究能力を活かすことができる。(DP2) ドイツ語を用い、独自の見解を論文で明示することができる。(DP3) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な専門職業人・研究者として活動できる研究能力を身に付けている。(DP2) ドイツ語を用い、独自の見解を論文で明示する能力を身に付けている。(DP3) 博士論文を完成させ、口頭試問にも合格している。(DP2・DP3) 	<p>「独語学」「独文学」の2つの研究領域を設け、カリキュラムの縦軸として、先行研究を踏まえ独自の見解を表明できる高度な研究能力を養成し、博士論文の完成を目指す「特別研究」を配置し、横軸として双方の研究領域に、高度な専門知識を涵養する「特論」を配置することにより、縦と横のつながりを保証した二段構えのカリキュラム編成を行う。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特論」と「特別研究」の双方において、専門文献の講読を行いながら、発表と議論を通して、論理的で一貫性のある独自の見解を表明できる研究能力を育成する。 博士論文の完成を目指す「特別研究」では、既存の研究水準を超える独自の見解を表明する能力の習熟度を確認しながら個人指導を行う。 「特別研究」において、高度な職業専門人・研究者になるための道を開くために、専門的学術誌への論文投稿を積極的に推奨し、ドイツ語で独自の見解を要旨として簡潔に明示する能力、論文全文をドイツ語で書き、独自の見解を体系的に明示する能力を育成する。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表と議論、研究課題に関するレポートにより、評価する。(DP2) 専門的学術誌に投稿した論文、特にドイツ語で執筆された論文、ならびに、博士論文と口頭試問により、評価する。(DP2・DP3) 	【入学者選抜の在り方】志望動機、筆記試験、研究計画内容、修士論文の精査および口頭試問により、独語学・独文学に関する専門的知識と問題発見能力および課題解決能力について、入試要項に基づき厳格に選抜を実施する。
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において、高度な専門職業人・研究者として活動できる後進を育成する資質と指導力を活かすことができる。(DP4) 研究倫理を遵守して、研究を遂行する能力を有している。(DP5) <p>【到達指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門分野において、高度な専門職業人・研究者として活動するための後進を育成する資質を有し、指導することができる。(DP4) 研究倫理を遵守して博士論文を完成させ、研究の推進に貢献することができる。(DP4・DP5) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な研究能力の育成と博士論文作成指導を行う研究指導教員による「特別研究」を必修科目として各年次に配置し、順次的・体系的な指導を保證することにより、研究倫理を体得した高度な専門職業人・研究者を育成する。 「研究倫理eラーニングコース」の受講を各年次において必須とする。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員による「特別研究」を3年間必修科目として配置し、順次的かつ体系的な研究指導を実施する。 1年次と2年次に公開の博士論文中間報告会を開催し、他の教員の評価も踏まえた博士論文作成指導を行う。 研究指導教員は、高度な専門職業人・研究者として自立できる資質と指導力の涵養を目標として、学会発表や専門的学術誌への投稿を積極的に推奨し、学内外の公正な評価も踏まえ研究指導を行う。 毎年度4月1日に個人履修指導を行い、「研究倫理eラーニングコース」の受講を各年次において必須とする。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業における発表と議論、博士論文中間報告会における発表、博士論文および博士学位申請論文発表会における口頭試問により、評価する。(DP4・DP5) 学会発表の回数、専門的学術誌への投稿数、学内外の公正な評価により、評価する。(DP4・DP5) 博士論文による評価の前提として、各年次において「研究倫理eラーニングコース」を受講していることを必須の条件とする。(DP5) 	